

ステロネマ注腸

を使用される方へ



[監修]

北里大学北里研究所病院
炎症性腸疾患先進治療センター長

日比 紀文先生

はじめに

「ステロネマ注腸」は肛門から注入する注腸剤です。決して内服はしないでください。

「ステロネマ注腸」はステロイド剤を主成分とする限局性腸炎、潰瘍性大腸炎の治療薬です。大腸に直接作用して炎症を抑えることでつらい症状を和らげます。

しかし間違った使い方をすると、腸管を傷つけたり、うまく患部にお薬を届けることができず、十分な効果が得られない場合があります。

この冊子は、「ステロネマ注腸」を正しく使用するための使用方法や注意事項を記載していますので使用する前にお読みいただき、必ず主治医または薬剤師の指示どおりにご使用ください。



ステロネマ注腸1.5mg



ステロネマ注腸3mg

使用方法	4
このお薬を使用される方へ	6
このお薬の主な副作用	7
使用し忘れた場合	8
保管上の注意事項	8
その他の注意事項	8
Q & A	9

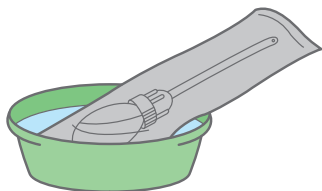
使用方法

- 使用量や使用回数は、症状に合わせて主治医が決めます。

主治医または薬剤師の指示どおり、ご使用ください。

刺激を
避ける

1



アルミ袋のまま温湯につけ、体温より少し高め温度（38～40℃程度）にあたためてから容器を取り出します。

参考：入浴後に使う場合は、お風呂のお湯に浮かべてあたためる方法もあります。

スムーズ
な挿入

2

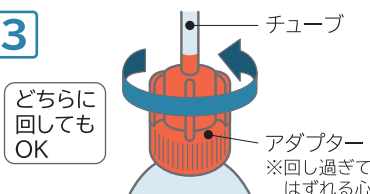


挿入する部分に潤滑剤（オリーブ油、ワセリン、グリセリン等）を塗ると滑らかに挿入できます。

必要に応じて
行ってください

開封方法

3



チューブを上向きにし、アダプターを左右どちらかに1回転して開封します。

どちらに
回しても
OK

アダプター
※回し過ぎてもアダプターが
はずれる心配はありません。

挿入時の
姿勢


4



左腰を下にして挿入

直腸粘膜を傷つけないようにするため、**必ず左腰を下にして、横になった状態**でゆっくりと挿入してください。

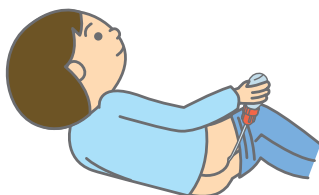
患者さまの直腸の長さや炎症の部位によって主治医がチューブ挿入の長さを決めます。一般的なチューブ挿入の長さの目安は「5～7cm」と言われており、チューブの先端には目安となる目盛を印字しています。

チューブ先端の目盛 

個人差はありますが、チューブ先端の赤ライン（6cm以上）より深く挿入すると、直腸粘膜を傷つけるおそれがあります。必ず主治医の指示に従ってご使用ください。

挿入方法

5



※容器の側面を強くおさえると、薬液が漏れることがあります。ご注意ください。



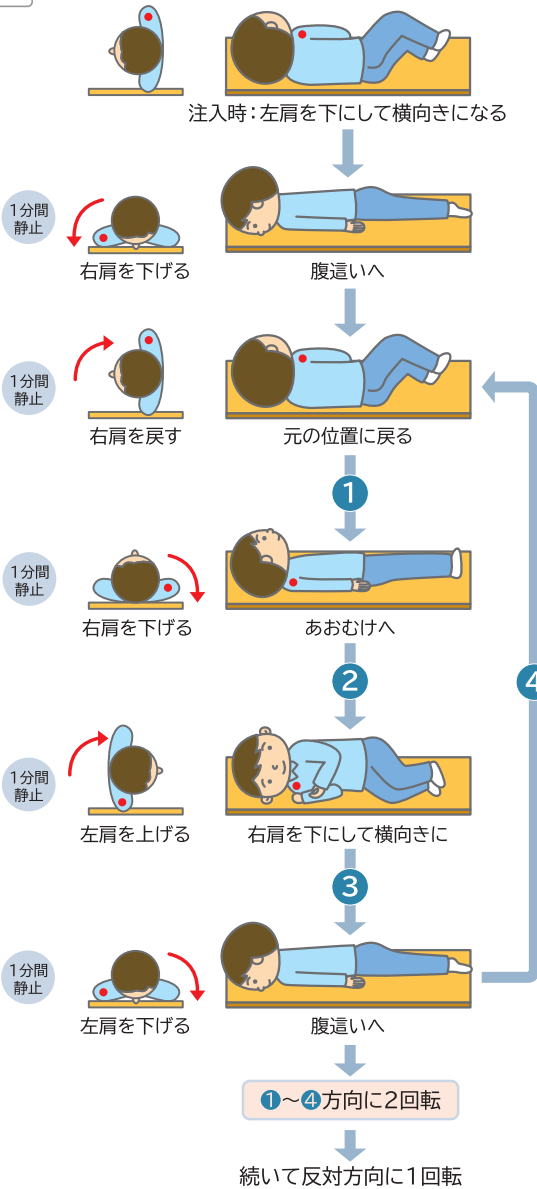
容器後方を高くしながら左図のように容器を持ちゆっくりと注入してください。

体位変換

主治医の指示に従って行ってください

6 主治医の指示がある場合は、次の通り体位変換を行ってください。

体位変換例

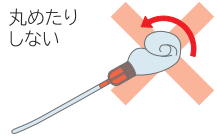


取扱い上の注意

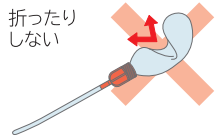
注意!!

薬液の注入時に、容器を丸めたり、折ったり、アダプター側を強くおさえたりすると、液漏れを起こすおそれがありますのでご注意ください。

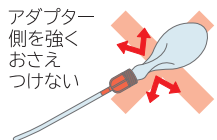
丸めたりしない



折ったりしない



アダプター側を強くおさえつけない



体位変換後は楽な姿勢で10~20分間横になってください。
排便は注入後、30分以上待ってから行ってください。

このお薬を使用される方へ

●このお薬は肛門から注入する注腸剤です。決して飲んだりしないでください。

使用量と使用回数は、症状にあわせて主治医が決めます。主治医または薬剤師の指示どおりにご使用ください。

●次の方は主治医または薬剤師にご相談ください。

- ・以前にお薬によって、かゆみや発疹などのアレルギー症状が出たことのある方
- ・感染症にかかっている方
- ・水痘(みずぼうそう)、麻疹(はしか)にかかったことのある方、または現在家族にかかっている方がいる方
- ・予防接種を受けた方、または受ける予定の方
- ・肝臓に病気のある方
- ・腎臓に病気のある方
- ・心臓に病気のある方
- ・甲状腺に病気のある方
- ・精神病の方
- ・角膜炎、白内障、緑内障の方
- ・高血圧症の方
- ・糖尿病の方
- ・消化性潰瘍の方
- ・骨粗しょう症の方
- ・電解質異常の方
- ・血栓症の方
- ・重症筋無力症の方
- ・最近内臓の手術をされた方

●特に注意していただきたい事項

・このお薬を使用している間は、手洗いやうがいをし、感染症にかからないように注意してください。特に**水痘(みずぼうそう)**や**麻疹(はしか)**には注意してください。一度かかったことのある方や予防接種を受けた方でも感染することがあります。また、ご家族などでかかっている方がいる場合には、近寄らないなど感染しないように十分注意してください。

尚、以下のような水痘・麻疹の症状があらわれた場合は、すぐに主治医へご相談ください。

水痘(みずぼうそう)
または麻疹(はしか)
の主な症状

- ・発熱
- ・強いかゆみ
- ・風邪のような症状
- ・かさぶた
- ・鼻の症状
- ・眼が赤くなる
- ・口内炎
- ・全身の発疹
- ・全身の水ぶくれ(水疱)



- ・予防接種(ワクチン等)を受ける場合は、必ず事前に主治医にご相談ください。
- ・B型肝炎の方もしくは以前にB型肝炎にかかったことのある方は、主治医にご相談ください。

●このお薬には併用を注意すべきお薬があります。他の病院を受診される場合や、薬局で他のお薬を購入する場合は、必ずこのお薬を使用していることを医師または薬剤師に伝えてください。

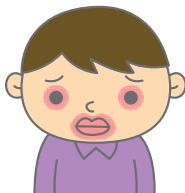
このお薬の主な副作用

● 次のような症状に気が付いたら、主治医または薬剤師にご相談ください。

じんましん



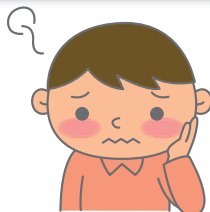
眼や口唇周りの腫れ



息切れ・息苦しい



ほてり



動悸



体がだるい



意識の低下



ふらつき



腹痛



胸やけ



吐き気・嘔吐



食欲不振



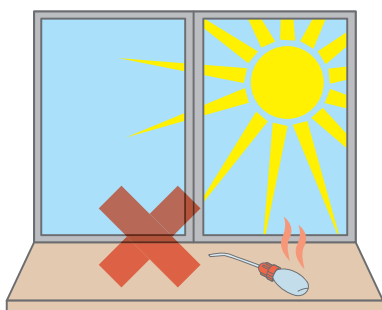
その他いつもと違う症状が起きた場合は、主治医または薬剤師にご相談ください。

使用し忘れた場合

- 決して2回分を一度に使用しないでください。
- 使用し忘れたことに気がついたときに、1回分を使用してください。ただし、次の使用時間が近い場合は1回とばして、次の時間に1回分使用してください。

保管上の注意事項

- 直射日光・高温多湿を避けて保管してください。
- 子供の手の届かない所に保管してください。



その他の注意事項

- お薬が余った場合は、主治医または薬剤師にご相談ください。
- このお薬はあなただけに処方されたお薬です。他の人（親、兄弟、姉妹、友人など）に絶対に渡さないでください。

準備に関するQ&A

Q1 使用前にお薬を温めるのはなぜですか？

A1 肛門から注入したお薬が腸を刺激しないようにするためです。直腸の温度は約38℃といわれています。温度が高すぎても低すぎても刺激になりますので、体温より少し高めめの38～40℃程度に温めてご使用ください。

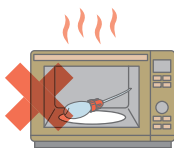
 <p>高温 (43℃以上)</p>	腸の粘膜が炎症を起す	 <p>低温</p>	血圧が上がる、 悪寒・寒気が起きる
---------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------	---------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------

Q2 38～40℃程度に温めるにはどうしたら良いですか？

A2 お薬のアルミ袋を外さずに、そのまま温湯につけてください。入浴後に使用される場合は、湯船に浮かべて温める方法もあります。容器が変形したり、お薬の成分に影響することがありますので、下記のような温め方は絶対にしないでください。



熱湯で温める



電子レンジで温める



ストーブの前や上に置く


挿入に関するQ&A

Q3 うまく挿入できないのですが、どうすれば良いですか？

A3 挿入するチューブにオリーブ油やワセリン、グリセリン等を塗ると挿入しやすくなります。

Q4 チューブはどれくらい挿入すれば良いのですか？

A4 直腸の長さや炎症の部位は患者さまによって異なります。挿入するチューブの長さは患者さまに応じて主治医が決めますので、主治医の指示通りに挿入ください。尚、チューブの先端に目盛を印字していますので、挿入の目安としてご確認ください。

[目盛] 

Q5 主治医の指示通りの長さまで挿入できているか不安です。チューブにつけるストッパーのような器具はありませんか？

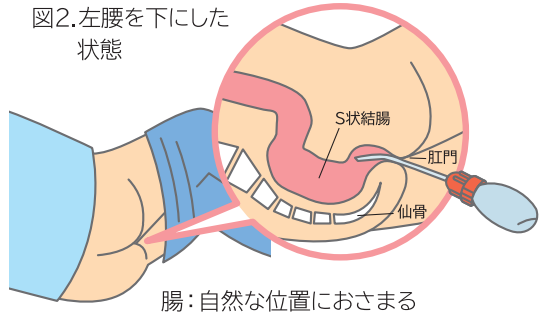
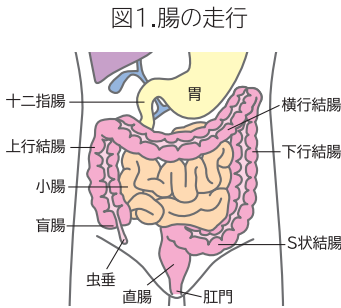
A5 ストッパーはご用意しておりません。輪ゴムやティッシュペーパーをチューブに巻きつけて、ストッパーの代用とする方法がありますので主治医または薬剤師にご相談ください。

Q6 どれくらいのスピードで注入すれば良いのですか？

A6 注入するスピードが速いと便意をもよおすことがあります。便意をもよおさない程度にゆっくりと注入してください。

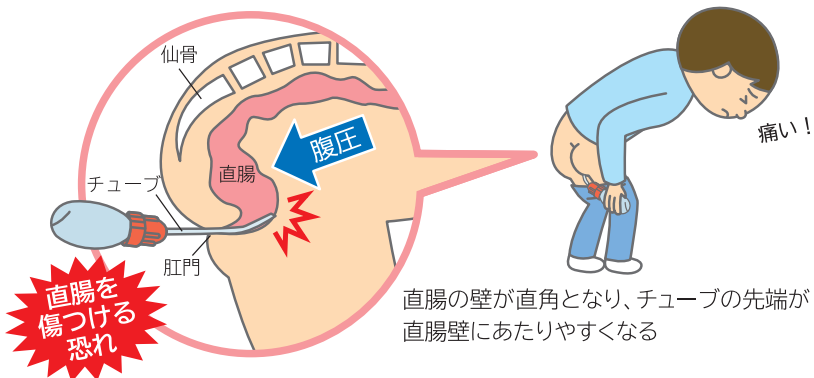
Q7 「左腰を下にした状態で挿入してください」と指示がありました。私は左利きなので「右腰が下の状態で挿入」しても良いですか？

A7 右腰が下の状態ではなく、必ず左腰を下にした状態で挿入してください。その理由は腸の構造上、左腰を下にした状態がお薬を注入しやすく、逆に右腰を下にした場合はS状結腸をチューブで傷つける恐れがあるためです。



Q8 立ったまま挿入しても良いですか？

A8 直腸粘膜を傷つける恐れがありますので、立ったまま挿入することは絶対に行わないでください。挿入は必ず左腰を下にした状態で行ってください。



注入後に関するQ&A

Q9 主治医からお薬を注入後に体位変換をするよう指示がありました。複雑で面倒なのですが、やらないとダメでしょうか？

A9 お薬を腸全体に行きわたらせて効果を高めるために必要です。ご面倒でも主治医の指示に従って、病気の症状が軽くなるよう頑張ってください。

Q10 お薬を38～40℃程度に温めて、ゆっくり注入しても便意をもよおします。どうしたら良いでしょうか？

A10 温めた温度の確認と注入スピードを更にゆっくりにした上で、次の方法もお試ください。

- ・排便を済ませておく
- ・無理して全量を注入しない
- ・体位変換はゆっくり行う
- ・体変換後、なるべく安静にする

それでも注入後30分以内に便意をもよおす場合は主治医または薬剤師にご相談ください。



Q11 お薬を注入後30分以内に排便してしまいました。もう一度お薬を注入した方が良いですか？

A11 30分以内にお薬の大部分が出てしまった時には、再度無理のない量を注入してください。出てしまったお薬が少しの場合は、再注入の必要はありません。

Q12 お薬を注入後30分以内にお薬の少量排出があり、30分以上経過後に排便を繰り返しています。再注入せずに様子を見ていますが、このまま様子を見ていれば良いですか？

A12 腸の調子が良くなかったり、排出・排便を繰り返すようでしたら、主治医にご相談ください。

Q13 主治医から指示された量のお薬が注入できずに一部が余りました。残ったお薬はどうすれば良いですか？

A13 衛生上の観点から、使用後に残ったお薬は必ず廃棄してください。

その他のQ&A

Q14 使用は「1日1回」と言われましたが、使う時間に決まりはありますか？

A14 決まりはありません。一般的に「入浴後や就寝前」が使用に適した時間とされていますが、主治医・または薬剤師の指示どおりにご使用ください。

Q15 このお薬は限局性腸炎や潰瘍性大腸炎を治すお薬ではないと聞きました。何のために使うのですか？

A15 病気の原因そのものを治すお薬ではありません。このお薬は腸の炎症を改善し、つらい症状を和らげる目的に使用します。腸の症状がひどい時や、落ち着いていた症状が悪化した時に使用するお薬です。

Q16 どれくらいの期間使用するのですか？また、症状が治ったら、すぐにやめることができますか？

A16 通常、1～2週間程度使用します。ただし、患者さまの症状にあわせて主治医が使用期間を決めますので、患者さまにより長くなったり短くなったりする場合があります。また、お薬をやめることについても患者さまの状態に応じて主治医が判断します。疑問や不安がございましたら主治医にご相談ください。

Q17 このお薬の他にも注腸剤を使用しています。2種類の注腸剤を使用する場合の使用方法や注意点を教えてください。

A17 使用する順番や使用法は主治医が症状に合わせて決めます。主治医にご相談いただき、指示どおりにご使用ください。